



CHAPTER 5

ファイル システムのクリーンアップの実行

適切なルータ動作を維持するために、定期的にコア ファイル、トレース ファイル、**crashinfo** ファイル、サブパッケージ ファイルのクリーンアップを実行します。ファイル システムのクリーンアップを実行する頻度は、ファイル システムの種類によって異なります。

この章の内容は次のとおりです。

- 「コア ファイルとトレース ファイルのクリーンアップの実行」 (P.5-1)
- 「**crashinfo** ファイルのクリーンアップの実行」 (P.5-3)
- 「サブパッケージ ファイルのクリーンアップの実行」 (P.5-3)
- 「詳細情報」 (P.5-6)

コア ファイルとトレース ファイルのクリーンアップの実行

コア ファイルとトレース ファイルは自動的に作成され、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータでは **harddisk:** ファイル システムの **core** ディレクトリと **tracelogs** ディレクトリに保存されます。ただし、Cisco ASR 1002 ルータおよび Cisco ASR 1002-F ルータでは、コア ファイルとトレース ファイルは **bootflash:** ファイル システムに保存されます。

適切なタイミングでのコア ファイルとトレース ファイルのクリーンアップは、ルータ動作にとって特に重要です。最適なルータ動作を維持するためには、**core** ディレクトリと **tracelogs** ディレクトリの内容を少なくとも週に 1 回は確認して減らします。

core ディレクトリと **tracelogs** ディレクトリの内容をクリーンアップするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Telnet または Secure Shell (SSH; セキュア シェル) 接続を使用して、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータにログインします。



(注) **core** ディレクトリと **tracelogs** ディレクトリには、大量の出力が含まれている場合があります。コンソール ポートの専有を避けるため、コンソール ポートではなく、Telnet または SSH 接続を使用してください。

ステップ 2 **cd** コマンドを使用して、**core** ディレクトリまたは **tracelogs** ディレクトリに変更します。

```
Router# cd harddisk:/tracelogs
```

ステップ 3 **dir** コマンドを使用して、**core** ディレクトリまたは **tracelogs** ディレクトリの内容を表示します。

```
Router# dir
```

■ コア ファイルとトレース ファイルのクリーンアップの実行

```

Directory of harddisk:/tracelogs/

753666 -rwx      164 Sep 14 2008 22:06:55 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.145
753667 -rwx      165 Sep 14 2008 21:01:41 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.221
753668 -rwx      165 Sep 14 2008 20:01:29 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.119
753669 -rwx      165 Sep 14 2008 20:06:30 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.110
753670 -rwx      165 Sep 14 2008 20:11:31 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.121
753671 -rwx      165 Sep 14 2008 20:16:32 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.132
753672 -rwx      165 Sep 14 2008 20:21:33 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.143
753673 -rwx      165 Sep 14 2008 20:26:34 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.154
753676 -rwx      165 Sep 14 2008 20:31:35 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.165
753677 -rwx      165 Sep 14 2008 20:36:36 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.176
753678 -rwx      165 Sep 14 2008 20:41:37 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.187
753679 -rwx      165 Sep 14 2008 20:46:38 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.198
753680 -rwx      165 Sep 14 2008 20:51:39 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.199
753681 -rwx      165 Sep 14 2008 20:56:40 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.200
753674 -rwx      165 Sep 14 2008 21:06:42 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.232
753675 -rwx      165 Sep 14 2008 21:11:43 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.233
753682 -rwx      165 Sep 14 2008 21:16:44 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.244
753683 -rwx      165 Sep 14 2008 21:21:45 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.255
753684 -rwx      165 Sep 14 2008 21:26:46 +01:00 inst_cleanup_R0-0.log.266

. . .

39313059840 bytes total (38428729344 bytes free)

```

ステップ 4 **delete** コマンドを使用して、**core** ディレクトリまたは **tracelogs** ディレクトリからファイルを削除します。作成日に基づいてファイルを削除します。つまり、古いファイルを先に削除します。

```
Router# delete inst_cleanup_R0-0*
```



注意 コア ファイルとトレース ファイルは削除できますが、**core** ディレクトリと **tracelogs** ディレクトリは削除しないでください。

ステップ 5 次のルータ上のすべての **core** ディレクトリと **tracelogs** ディレクトリで、ステップ 2 からステップ 4 を繰り返します。

- Cisco ASR 1006 ルータでは、両方の RP の **harddisk:** ファイル システムでファイルのクリーンアップを実行します。
- Cisco ASR 1004 ルータでは、シングル RP の **harddisk:** ファイル システムでファイルのクリーンアップを実行します。
- Cisco ASR 1002 ルータと Cisco ASR 1002-F ルータでは、**bootflash:** ファイル システムでファイルのクリーンアップを実行します (**harddisk:** ファイル システムは使用できません)。

crashinfo ファイルのクリーンアップの実行

crashinfo ファイルは自動的に作成され、すべての Cisco ASR 1000 シリーズ ルータの bootflash: ファイル システムまたは harddisk: ファイル システムに保存されます。最適なルータ動作を維持するためには、不要な crashinfo ファイルを少なくとも週に 1 回は削除します。

crashinfo ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** Telnet または Secure Shell (SSH; セキュア シェル) 接続を使用して、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータにログインします。



(注) crashinfo ファイルは、大量の出力を生成する可能性があります。コンソール ポートの専有を避けるため、コンソール ポートではなく、Telnet または SSH 接続を使用してください。

- ステップ 2** cd コマンドを使用して、bootflash: ディレクトリまたは harddisk: ディレクトリに変更します。

```
Router# cd harddisk:
```

- ステップ 3** dir コマンドを使用して、ディレクトリの内容を表示します。

```
Router# dir
Directory of harddisk:/

   11  drwx           16384  Dec  4 2007 12:23:10 +00:00  lost+found
557057  drwx           4096   Aug  4 2008 23:10:46 +01:00  core
   12  -rw-             0   Dec  4 2007 12:24:35 +00:00  tracelogs.780
753665  drwx          167936   Sep 14 2008 22:27:00 +01:00  tracelogs
   13  -rw-          234250   Feb  1 2008 05:56:59 +00:00  crashinfo_SIP_01_00_20080C
   14  -rw-          46853   Apr 10 2008 00:50:12 +01:00  tech_support_ouput.tgz.tgz
   15  -rw-      225308932   Aug 13 2008 22:50:29 +01:00  2008-08-10_14.32.rp_supern
   16  -rw-      208904396   Aug 20 2008 21:20:33 +01:00  asr1000rpl-adventerprisekn

39313059840 bytes total (38428712960 bytes free)
```

- ステップ 4** delete コマンドを使用して、crashinfo ファイルを削除します。

```
Router# delete crashinfo_SIP_01_00_20080C
```

- ステップ 5** 他のファイル システムで、ステップ 2 からステップ 4 を繰り返します。
Cisco ASR 1006 ルータでは、両方の RP の crashinfo ファイルを消去します。

サブパッケージ ファイルのクリーンアップの実行

統合パッケージ ファイルは、USB Flash ディスクまたは TFTP などのネットワーク サーバ上の bootflash: ファイル システムに保存できます。個々のサブパッケージ ファイルとプロビジョニング ファイルは、bootflash: ファイル システムに保存する必要があります。

サブパッケージ ファイルは、起動または指定されたプロビジョニング マネージャが参照しなくなった場合、もう使用されません。最適なルータ動作を維持するために、使用されなくなったサブパッケージ ファイルとプロビジョニング ファイルを削除します。

使用されなくなったサブパッケージ ファイルとプロビジョニング ファイルを削除するには、**request platform software package clean** コマンドを使用します。このコマンドは、使用されているサブパッケージ ファイルとプロビジョニング ファイルを確認し、使用されていないファイルだけを削除します。

例：使用されていないすべてのサブパッケージ ファイルとプロビジョニング ファイルを起動ディレクトリから削除する

次の例は、使用されていないすべてのサブパッケージ ファイルとプロビジョニング ファイルを起動ディレクトリから削除する方法を示しています。

```
Router# request platform software package clean
Cleaning up unnecessary package files
No path specified, will use booted path harddisk:packages.conf
Cleaning harddisk:
  Scanning boot directory for packages ... done.
  Preparing packages list to delete ...
  asr1000rp1-espbase.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  asr1000rp1-rpaccess.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  asr1000rp1-rpbase.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  asr1000rp1-rpcontrol.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  asr1000rp1-rpios-adventerprisek9.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  asr1000rp1-sipbase.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  asr1000rp1-sipspa.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  packages.conf
    File is in use, will not delete.
done.

Files that will be deleted:
  packages.con.00
  packages.conf.copy
  testing1.pkg
  testing1.pkg

Do you want to proceed? [confirm]y
  Deleting file harddisk:packages.con.00 ... done.
  Deleting file harddisk:packages.conf.copy ... done.
  Deleting file harddisk:testing1.pkg ... done.
  Deleting file harddisk:testing1.pkg ... done.
SUCCESS: Files deleted.
```

次の例は、起動ディレクトリにあるすべてのサブパッケージ ファイルとプロビジョニング ファイルを示しています。使用されているファイルは削除できません。

```
Router# request platform software package clean
Cleaning up unnecessary package files
No path specified, will use booted path harddisk:packages.conf
Cleaning harddisk:
  Scanning boot directory for packages ... done.
  Preparing packages list to delete ...
  asr1000rp1-espbase.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  asr1000rp1-rpaccess.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  asr1000rp1-rpbase.02.03.00.122-33.XNC.pkg
    File is in use, will not delete.
  asr1000rp1-rpcontrol.02.03.00.122-33.XNC.pkg
```

```
File is in use, will not delete.
asr1000rp1-rpios-adventerprisek9.02.03.00.122-33.XNC.pkg
File is in use, will not delete.
asr1000rp1-sipbase.02.03.00.122-33.XNC.pkg
File is in use, will not delete.
asr1000rp1-sipspa.02.03.00.122-33.XNC.pkg
File is in use, will not delete.
packages.conf
File is in use, will not delete.
done.
```

SUCCESS: No extra package or provisioning files found on media. Nothing to clean.

例：特定のサブパッケージ ファイルを起動ディレクトリから削除する

次の例は、特定のサブパッケージ ファイルを起動ディレクトリから削除する方法を示しています。

```
Router# request platform software package clean file harddisk:testing1.pkg
Cleaning up unnecessary package files
Scanning boot directory for packages ... ^./testing1.pkg$ /harddisk/
done.
Preparing packages list to delete ...
done.
```

```
Files that will be deleted:
testing1.pkg
```

```
Do you want to proceed? [confirm]y
Deleting file harddisk:testing1.pkg ... done.
SUCCESS: Files deleted.
```

次の例は、使用中の場合は特定のサブパッケージ ファイルを削除できないことを示しています。

```
Router# request platform software package clean file harddisk:packages.conf
Cleaning up unnecessary package files
Scanning boot directory for packages ... done.
Preparing packages list to delete ...
packages.conf
File is in use, will not delete.
done.
```

SUCCESS: No extra package or provisioning files found on media. Nothing to clean.

例：異なるメディアの重複するサブパッケージ ファイルを削除する

次の例は、サブパッケージがコピーされ、起動に使用されたファイルと同じ名前が付いているものの、この重複するファイルが異なるメディアにある場合の、サブパッケージの削除方法を示しています。

```
Router# request platform software package clean file bootflash:packages.conf
Cleaning up unnecessary package files
Scanning boot directory for packages ... done.
Preparing packages list to delete ...
done.
```

```
Files that will be deleted:
packages.conf
```

```
Do you want to proceed? [confirm]y
Deleting file bootflash:packages.conf ... done.
SUCCESS: Files deleted.
```

詳細情報

この章で説明したトピックの詳細については、次のマニュアルを参照してください。

トピック	マニュアル
コマンドの説明	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』 Command Lookup Tool (Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要)